

## 令和6年度事業報告

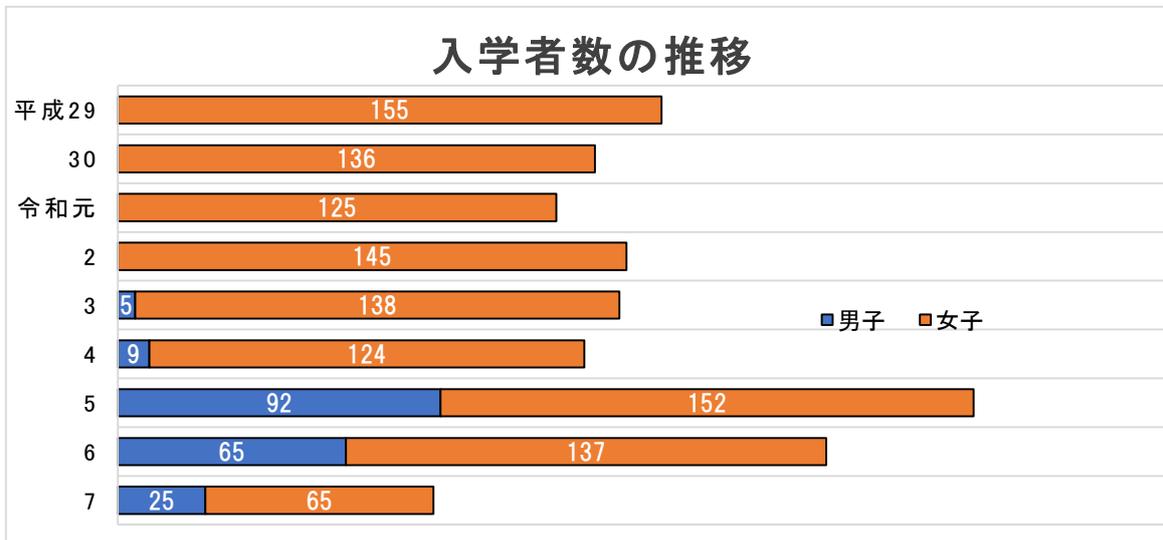
### 1 生徒数の推移

#### (1) 入試状況

7年度入学	単願	併願	再募集	総受験数	入学数
男子	21	44	0	65	25
女子	56	130	0	186	65
合計	77	174	0	251	90

計画通り学校見学・説明会を3回、計4日間開催した。その参加数は749名で前年より106名減少した。事前申込制として参加人数を制限したことが主な原因と考えられる。

令和5・6年度入学数が定員を大きく超過したことを受け、教員・教室の不足解消や教育の質の低下を避けるため、令和7年度は合格基準を上げた。これにより入学数は大幅に減少したと分析する。



#### (2) 在籍生徒数（令和7年4月1日）

生徒数	年次	男子	女子	合計
	1年次生	25	65	90
	2年次生	57	129	186
	3年次生	82	136	218
計		164	330	494

#### (3) 卒業生の進路状況

6年度	大学	短大	看護	専門	就職	他	計
生徒数	24	2	2	38	56	0	122

### 2 令和6年度の指導と成果

#### (1) 教科指導方針及びその成果

1年次生にタブレット端末を導入し、その利活用を促進することで授業の充実を図った。また、観点別評価の理解浸透と「指導と評価の一体化」の意識向上に取り組んだ。その成果は数値として顕著に見られる訳ではないが、確かな手応えを感じる教員が見られる。

## (2) 生徒指導方針及びその成果

予防的指導に重点を置き、外部講師による交通安全教室や薬学講座等を実施した。SNS に関わる生徒指導が全国的に増加傾向にある中、情報端末の適切な使用についての呼びかけを、年次集会や全校集会において継続的に実施した。また、教員間の情報共有機会を増やし、生徒を多面的に支援することを心掛けた。また、生徒の主体性を育成する指導へ移行し、新しい焼津高校は生徒指導の新しいステージに入る、その準備が進んだ。

## (3) 進路指導方針及びその成果

進路部を中心に、校内外へ積極的な働きかけを行った。SPI 対策、資格取得など進路目標にあわせた取組を継続し、進路別にガイダンスを実施した。就職指導では、次年度以降に男子の卒業生が大幅に増加することを踏まえ、年間を通じて企業訪問を実施し、新規事業所の開拓に尽力した。進学指導では進学検討会を開催し情報共有を指導に活かす体制を整えた。いずれも事前事後に面談を実施し、生徒が自身の強みを生かし、個性を伸張できるように留意した。

令和6年度卒業生は市役所、銀行など、旧来にはない就職先を決めた生徒が散見された。進学指導では、総合学科の学びを活かして、プレゼンテーションを用いた形式により、公立法人都留文科大学に合格したケースがあった。進路指導の成果は確実に表れている。

## 3 学校内の改革

(1) 常に社会情勢や生徒保護者の変化を捉える姿勢を保ち、正しい生徒理解と働きやすい労働環境のために、人権尊重、説明責任、法令遵守に対する教職員の意識を更に高めるよう、機会あるごとに促した。

(2) 私学における他校の情報の少なさ、視野狭窄を解消することを目的として、校内外の研修に参加することを推奨した。県教育委員会、静岡県総合教育センター、私学協会などが主催する校外研修に年1回以上、校内研修でも外部から講師を招いての講演、教職員による伝達講習などを行った。

(3) 多様化する社会の変化に対応するため、及び教職員の業務注力化のため、以下のとおり次年度の改変の準備を進めた。

ア 組織力を高めて教育力向上を図るため、年次部主導の進路指導や行事運営を分掌主導の運営に徐々に切り替え、組織の整理と体系化を進めた。

イ 超過勤務を削減し働き方改革を推進するため、出退勤時間を管理するタイムカードの定着を図り、定時退勤日の設定などで超過勤務削減に努めた。また、賃金体系の見直しや就業規則の改変により教職員の労働環境の改善を進めた。

ウ 教育のDX化を促進し、次年度の一人1台端末導入に対応するため、教育DXスーパーバイザーを採用して校内ネットワークの整備と情報の一元化を進めた。また、教職員の業務パソコン導入に伴うセキュリティポリシーの策定を進めた。

エ 総合学科の特長を活かし進路目標を達成するために、1年次の「産業社会と人間」、2・3年次の「総合Ⅰ・Ⅱ」を中心に3年間の学びを体系化したロードマップの改変に取り組んだ。

オ 生徒の主体性育成のため、部活動の新設・統廃合を進めた。